

令和3年度こだまクラブ 自己評価

この自己評価は厚労省が示したガイドライン中に例示された項目に従って令和3年12月～令和4年1月に実施した保護者アンケートをもとに令和4年2月、現場職員で行いました。

チェック項目		自己評価/今後の課題	
環境 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	△	限られたスペースの中で、色々な子が空間を共有できるように仕切り等の活用をはじめ、過ごし方の約束を定着できるよう指導していきます。一方コロナ対策として密を避けるために多目的室を使用するなど柔軟に対応しました。さらに活動場所として活動支援センターの活用を検討しています。
	② 職員の配置数は適切か	○	職員は8名いますが、家族との接点は限られています。職員とその専門性を紹介してほしい旨のご意見は以前からいただいています。紹介できればと家族向け広報を検討しています。
	③ 事業所の設備等についてバリアフリー化の配慮が適切になされているか	○	車いすは対応できますが、手洗いやトイレ、ロッカーまでの案内には、必要なお子さんには職員の誘導を要します。今後の課題です。適切なトイレの使い方と共に居場所づくりを工夫します。
業務 改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	○	子どもの支援について、接し方や課題などの目標を決め、継続すべき点、改善を要する点を確認し次回につなげられるよう話し合っています。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	本年度もアンケートを実施、ご意見を賜りました。この自己評価に反映させています
	⑥ この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	ホームページに掲載しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○	保護者アンケートをもって第三者評価とし、業務改善に努めています。
⑧ 職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保しているか	○	コロナ禍中ではありましたが、できるだけ多く研修できるよう努めました。	
適切 な支 援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで放課後等デイサービス計画を作成しているか。	△	モニタリングやふだんのようなすをお知らせしたり困り感の共有をする中で、家族の要望などを反映できるように努めてきましたが、半面働きかけがきちんとできなかった面がありました。定期的な提示を行います。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	インテークにおいて標準的なアセスメントツールを設定し、使用しています。一方で家族の要望や困りごとを評価できるよう聞き取りにも努めています。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	サービス管理責任者と現場担当職員が協議の上決定しご案内しています。この協議の中で、発達段階や関心の度合いなどを考慮して活動内容における獲得目標などを話し合っています。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	「家庭ではできない体験」「季節感を感じることができるとの取り組み」と評価いただきました。ありがとうございます。なお、社会参加活動はコロナ禍でもあり残念ですが自粛しております。なお、様々な活動を計画し取り組んでいますが、ひとり一人利用機会は限られており、参加できていない子どももほかの日の活動内容を知ることができるよう工夫をしていきます。
	⑬ 平日、休日、長期休暇中に応じて課題をきめ細かに設定して支援しているか。	○	短時間でも繰り返し取り組みたい活動やまとまった時間を要する活動を組み合わせ計画しています。
	⑭ 子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○	日課において集団療育と個別の取り組みを設定しています。ひとり一人の課題の支援の他、小集団での遊びや音楽、工作など楽しい活動になるよう働きかけています。また、ご要望があればご意向をうかがってまいります。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○	必ず打ち合わせを行い、活動のねらいや職員の分担など確認することとしています。
	⑯ 支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い気づいた点等を共有しているか。	○	支援終了後は子どもの送りがあるため、翌日のミーティングで支援内容や子どもの様子など共有し次の支援につなげていくようにしています。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	連絡帳に記載した内容や、目標にてらしてできたことや課題などを記録しています。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○	定期的に面談や情報交換を行い、支援に反映できるよう努めています。
⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	季節感のある活動や行事、友だち同士の協働や社会性の向上、社会参加の体験（今は自粛していますが）等とひとりひとりのできるといいねの活動を組み合わせ支援しています。	
⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか。	○	最もふさわしい職員が参画しています	
㉑ 学校との情報共有（年間計画、行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	お迎え時の情報交換など必要に応じて情報の共有に努めると共にケース会議などの機会には積極的に参加すること知っています。	
㉒ 医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。	—		

令和3年度こだまクラブ 自己評価

この自己評価は厚労省が示したガイドライン中に例示された項目に従って令和3年12月～令和4年1月に実施した保護者アンケートをもとに令和4年2月、現場職員で行いました。

チェック項目		自己評価/今後の課題	
関係機関や保護者との連携	⑳ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	相談支援専門員を通じて発達段階や家族の要望などを知るようにしています。また、引き継ぐときはサービス担当者会議、ケース会議などに参加、情報共有と相互理解に努めています。
	㉑ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	進路相談や進路先との連絡調整を行うなどしました。本年度はおひとかたの進路決定に関わりました。
	㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等との専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	△	相談支援専門員を通じて情報や助言を受けています。また、総合支援協議会を通じて情報交換等を行っています。
	㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか。	×	コロナ感染症が収束したのち、社会貢献活動（乗馬体験、子ども食堂等）に取り組む中で行いたいと考えています。
	㉔ （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	玉野市障害者総合支援協議会（子ども部会）に部長として参加しています。
	㉕ 日ごろから子どもの状況を保護者に伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	連絡帳を通じてクラブでの様子や気がついたことなどをお知らせしているほか、送迎等の機会を利用して直接お話をさせていただいています。また、必要に応じて面談して情報交換や課題についての共有に努めていきます。
	㉖ 保護者の対応力を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。	△	必要に応じて家族の困り感に寄り添ってお話を聞いたり、助言をしたりしています。ペアレントトレーニングの支援は現段階では行っていませんが、コロナ収束後は家族が集まって交流できる機会を持ちたいと考えています。
保護者への説明責任等	㉗ 運営規程、支援の内容、利用者負担等についていけない説明を行っているか。	○	支援内容は連絡帳やモニタリングの説明などで行っています。その日のようすはどのスタッフが送ってもわかりやすくお話しできるよう努めます。利用者負担は利用開始時や変更があった時などに重要事項説明書を使って行っています。
	㉘ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○	必要に応じて家族とのふだんのやりとりの中で課題を汲み、助言できるようにしています。相談支援専門員を通じ関係機関に情報提供し必要な支援につなげた例もありました。
	㉙ 父母の会の活動を支援したり保護者会等を開催したりする等により、保護者同士の連携を支援しているか。	△	従来より年に3、4回家族を招いて一緒に活動したり交流を図ったりしていました。しかし昨年度よりコロナ対策で見合わせており、実施機会がありませんでした。収束後には法人、クラブの行事を活用して家族の交流の機会を支援したいと思っています。
	㉚ 子どもや保護者からの苦情について対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	△	「食事中にボール遊びが始まるなどしたが苦情や意見を言えるタイミングがない」とご意見いただきました。①の欄で示しましたが、活動場所の確保を検討していること、過ごし方の約束を指導していることとお知らせします。ありがとうございました。苦情の申し出は重要事項説明書に記載し、わかりやすく説明しています。もし苦情の申し出があった時は法人本部と連絡し、迅速に対応することとしており、その際申し出者には「苦情は宝」という認識で対応します。
	㉛ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月のプログラム等で内容は発信しています。表記は子どもでもわかりやすいように努めております。利用日によって参加できなかった活動についても概要だけでも伝わるよう工夫していきたいと思っています。事業所の自己評価は年度末にホームページにアップしています。
	㉜ 個人情報に十分注意しているか。	○	写真は契約の際外部、法人の広報等に分けて可否をうかがっており、それに基づいて判断しておりますが、広報など外部に写真などを出す場合はその都度意向を確認することとしています。
	㉝ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	連絡帳と送迎時の情報交換で意思疎通を図っており、大事に維持したいと考えています。
非常時等の対応	㉞ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか。	—	法人行事として地域の方と一緒に過ごす機会を予定していましたが、昨年度よりコロナ対策のために中止となりました。収束後は法人の他事業所と共に地域に開かれた活動として参加する予定です。
	㉟ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか。	○	契約時の説明で重要事項説明書を使って説明を行いました。また、天候上の警報発令時など必要な時に必要な方に対して、お伝えしてきました。今後もより分かりやすい発信の仕方を工夫します。
	㊱ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他の必要な訓練を行っているか。	○	月に1回避難訓練を行いました。曜日を変え、地震や火災など想定に合わせて避難方法もあらかじめ伝え、行動の仕方が分かるよう練習していきます。
	㊲ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか。	○	虐待防止のセルフチェックに取り組んだほか、法人の虐待防止委員会に参加しました。また、虐待防止責任者を選定し、不適切な対応があれば小さなうちに取り除けるよう日常的に話し合いを持っています。
	㊳ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで放課後等デイサービスの支援計画に記載しているか。	○	現在のところ該当事例はありませんが、支援者が体を使って押さえつける行為も身体拘束となることから、緊急やむを得ない場合の三原則を支援計画に記載してやむを得ない場合以外は行わないことと共に説明していきます。やむなく行った場合は記録し、家族に報告します。
㊴ 食物アレルギーのある子どもについて医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	現利用者では該当する方がいませんが、インテークの際には必ずアレルギーの有無をお尋ねしており、支援が必要な場合には支援計画に記載することとしております。	

令和3年度こだまクラブ 自己評価

この自己評価は厚労省が示したガイドライン中に例示された項目に従って令和3年12月～令和4年1月に実施した保護者アンケートをもとに令和4年2月、現場職員で行いました。

チェック項目		自己評価/今後の課題	
⑬	ヒヤリハットの事例集を作成し事業所内で共有しているか。	○	作成し、支援の見直しや家族や関係機関との情報共有の判断の基にしています。
満足度	保護者アンケート⑰ 子どもは通所を楽しみにしているか。	「通所を嫌がった際の原因を探ったか不明のまま」とご意見いただきました。子どもが利用を嫌がる時はその原因を検証し、その評価を家族と必ず共有することとし、解決半ばで立ち消えになることのないよう留意します。	
	保護者アンケート⑱ 事業所の支援に満足しているか。	「問題や課題が多々あるが今後の改善に期待したい」とご意見いただきました。改善の課題を確認し、優先順位を定め計画的に取り組んでいきます。またこの意思決定の経緯はお知らせするよう努めます。子どもが認めてほしいことを評価して喜びを感じてもらえるようにするとともに評価によって子どもの自己肯定感が高まるよう留意します。	